



①A展示室

扉のそばに立ち展示室をながめると、奥まで長く見えます。奥に進むほど天井が低くなり横幅が狭くなるので、実際の奥行きは見た目より短いことに気付くでしょう。天井の丸窓には美術館の設計図が描かれています。展示台の下は、ガラスの原料の珪砂(けいしゃ)が吹きつけてあります。



②ガラスのブリッジ

傾斜した天井とガラス壁のため、直立していても斜めに立っているような錯覚を覚えます。窓ガラスの水玉模様は奥に進むほど小さくなります。黒光りする手すりには、石川県の伝統工芸である漆塗りが施されています。



⑤B、C展示室

天井にプリズムが取り付けられており、5月から8月までの晴れた日には、展示室内に虹色の光が差しこむ自然の演出が楽しめます。



④ラウンジ

階段両脇のガラスには、雲がデザインされており、天候や季節によって館内の様子が刻々と変化することを象徴しています。赤い格子窓近くの床に足型があり、その上に立つと白い窓ガラスが透明に変わります。ガラスとガラスの間に液晶がはさまれており、電気が流れると透明に変化します。



③D展示室

3Fから1Fまで吹き抜けの空間となっています。天井からつるされた赤い網状のオブジェは、能登の夕日に染まった雲がモチーフになっています。1F展示室に降りるらせん階段の手すりは、柵がリズムカルな間隔で配されています。エレベーターは、ガラス張りでの構造を見ることができます。1F展示室の中央付近にある飾り柱には、石川県の伝統工芸「九谷焼」のカラフルな陶片がはりつけられています。

収蔵品の紹介



「おどけたフクロウ」
エジディオ・コスタンチーニ
(ピカソのデザインにもとづいて)
1962年



シンボルモニュメント「蔵」
藤田高平
1997年



「青地黄被花鳥文瓶」
中国清時代
18世紀

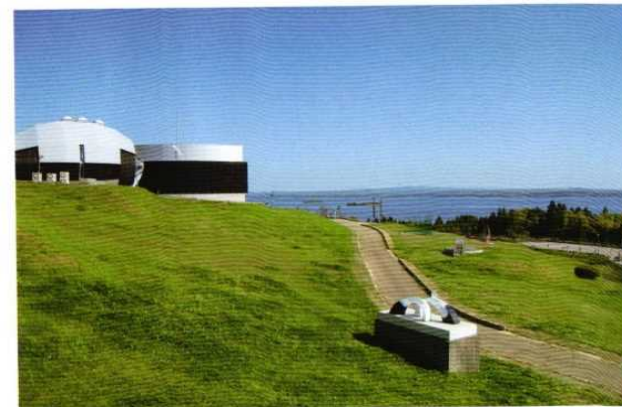


「黄色饗餐文平壺」
中国清時代
18世紀



「ラスト・ダンス」
トゥーツ・ジンスキー
2000年

* 展示作品は変更する場合があります。



世界的にも珍しいガラス作品だけを展示する庭園。ガラス造形界を代表する作家たちによるもの。能登の海を背景に四季折々に変化するガラス作品のきらめきをご覧ください。